

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.67

成田市立図書館だより 第67号 2009年（平成21年）3月31日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646

FAX 0476-27-4641

<http://www.library.narita.chiba.jp>



拡大読書機。。。 ご存知ですか？

対面朗読室内には、大活字本があり、さらに大きな字で読めるよう拡大読書機があります。

障がいのある方以外でも使えますので、お気軽にご利用ください。

平成20年度 図書館講座

文学講座

「成田屋の代々」

講師 作家
松井 今朝子 氏 2008.10.18



今年度の文学講座は、直木賞作家の松井今朝子氏を講師に招き、「成田屋の代々」と題してお話しいただいた。京都祇園に生まれ、南座にほど近い環境で育たれた松井氏は、子どものころから歌舞伎に魅了され、また絶えず近くに歌舞伎のある生活をしてこられた。松竹株式会社時代には、歌舞伎の企画・制作に携わり、フリーになってからも、歌舞伎の脚色や演出、評論を手がけられ、歌舞伎の入門書なども書かれている。



市史講座

「古代の成田と“香取の海”」

講師 国立歴史民俗博物館館長
平川 南 氏 2008.11.1

今年度の市史講座は、成田市役所6階大会議室で、国立歴史民俗博物館館長の平川南氏を講師に迎え、お話いただきました。

平川氏の専攻は日本古代史で、漆紙文書・木簡・墨書土器などの出土文字資料により古代社会の研究をされています。その研究は文献史学の領域に止まらず、考古学・民俗学・文学・自然科学など総合学問としての歴史を目指されています。また、博物館や歴史学が地域に果たす役割、さらに歴史を探る大切さを、各所での講演活動等を通じ意欲的に発信しておられます。

講演は、今は内陸の成田周辺が古代は「香取の海」と呼ばれる巨大な内海に面した地域であったことを軸に、それにより非常に豊かな歴史が築き上げられたことが、さまざまな資料を基に解説されていきました。

まず、公津原古墳群と竜角寺古墳群の存在から、古墳時代のこの地域に二大勢力があった

成田山詣りをしてから、当館にいらした松井氏は、成田山参道で開催されていた「御利生祭 成田弦まつり」の賑やかな三味線の演奏を楽しまれたり、本堂の不動明王像や成田山霊光館の團十郎にまつわる資料を堪能されたご様子だった。

昨年(2019)の4月26日、成田山開基1070年を記念して行われた、十二代目市川團十郎、海老蔵親子の御練り行列と奉納演舞が記憶に新しいところだが、「成田屋」と呼ばれる團十郎は、代々、成田山と深い縁で結ばれている。

子どもに恵まれなかった初代團十郎が、成田不動尊に念じ、子どもが授かっただけという話から始まり、代々の團十郎の成田にまつわる話や、歌舞伎の特徴をエピソードを交えながら詳しくお話しいただいた。團十郎がいたから成田山が栄えたのか、成田山のご利益があって團十郎の名が長く続いているのかは定かではないが、芸を越えた熱狂的な人気は、これからも続くことだろう。



こと。その支配は後に印波と埴生に分かれ、初めは同等だったものがやがて埴生の力が増し、印波は西に新開地を求めていったこと…それらが発掘や文献資料などから明らかになっていく過程を順序良く説明してくださいました。

そして、この地域で東国最古の大量の文字瓦が出土していることや全国で極めて特殊な多文字の墨書土器が集中しているという説明に驚かされました。その理由は、天神を背景にした埴生に対し、印波が国神(土着神)と新しい信仰の形である墨書土器を利用し西に勢力を拡げていったためではないか、とのこと。それらの考察を裏付ける資料も、『日本霊異記』、大祓の祝詞、ヤマトタケル東征ルートなど多様なものが飛び出し、まさに歴史のミステリーがどのように紐解かれていくのかを垣間見るような講演でした。



最後に参加者からの質問にお答えいただき、講座は終了しました。その中で平川氏が「平成の大合併と言われていますが、地名は文化遺産。我々がわずかな資料を追いかける時の手がかりでもある地名が失われることはその地域の歴史文化を失うことにもなるので、そういう面からも大事にしていきたい」と述べられたことが印象深かったです。

最後に参加者からの質問にお答えいただき、講座は終了しました。その中で平川氏が「平成の大合併と言われていますが、地名は文化遺産。我々がわずかな資料を追いかける時の手がかりでもある地名が失われることはその地域の歴史文化を失うことにもなるので、そういう面からも大事にしていきたい」と述べられたことが印象深かったです。

当日は、213名もの方にご参加いただき、「大変興味深かった」等多くのご好評をいただきました。今回の講演録は、平成21年度発行の『成田市史研究』に掲載する予定です。

* 情報活用コーナー* ご活用ください! オンラインデータベース

市立図書館2階参考資料室の情報活用コーナーでは、オンラインデータベースがご利用いただけます。法律や昔の新聞を調べたいときなどにご活用ください。

■第一法規 法情報総合データベース **New! 平成21年4月よりご利用いただけます!**

現行法規 [履歴検索]、判例体系、法律判例文献情報が検索できます。

■聞蔵(きくぞう)2ビジュアル(朝日新聞)

1984(昭和59)年8月以降の朝日新聞の記事を検索し、本文を閲覧できます。1945年～1984年までの新聞紙面データも検索できます。千葉版は1988(昭和63)年6月から検索が可能です。

■日経テレコン21(日本経済新聞)

日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞、日経金融新聞などの「新聞記事検索」ができるほか、マーケット関連情報の検索や、企業情報・決算などが検索できる「企業検索」もあります。

●ご利用方法●

2階参考資料室カウンターにて図書館の「利用カード」(お持ちでない方はお名前・ご住所が確認できる証明書)をご提示のうえ、お申し込みください。

●料 金●

無料(プリントアウトは有料。データベースにより利用条件が異なります)

赤ちゃんも絵本が大好き Part 13

「おさじさん」 松谷みよ子/文 東光寺啓/絵 童心社

おさじさんは、おいしいものをお口に運ぶきしゃぼんぼです。おいしいにおいをかぎつけて、大急ぎです。いいにおいのするほうへ、とことことこと歩いて行くと、うさぎさんがたまご入りのおかゆをたべるころでした。「ぼく おてつだいであげる」と、おさじさんは言いました。ところが「いいの いらないの ぼくひとりで たべるよ」と、ことわられてしまいました。



「くらいくらい」 はせがわせつこ/ぶん やぎゅうげんいちろう/え 福音館書店

まっくら、くら、くら、くらーい、くらい。電気をつけてちょうだい。ついた!出てきたのは、ことりのピーちゃんだ。さて、お次はだれかな?次々に出てくる動物たちがとっても楽しい絵本です。同じシリーズの「めんめんばあ」や「おでかけばいばい」もお勧めです。



編集後記

図書館では、平成20年度は祝日が月曜日だった場合に開館しておりました。平成21年度は利用者の方がさらに使いやすいよう、すべての祝日を開館し、また、開館25年目にあたりますので記念事業なども行う予定です。ぜひご来館ください。

成田市立図書館だより No.67
発行 成田市
編集 成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3
☎ 0476-27-4646
発行日 2009.3.31
登録番号 成教図08-057